

学問の大いなる志 盛岡における洋学発祥の地

日本近代製鉄の父・大島高任
西洋医学者・八角高遠（宗律）
ふたりの『たかとう』らにより
この地に洋学が開花する



岩手県医師会により建立されたこの碑には、次のように記されている。ここ新山館の地は、藩政時代に洋学校日進堂が創設された洋学発祥の地である。

文久元年、盛岡藩の洋学研究の同志は盟約を結び、洋学を開いて物理・化学・医学・物産学等を講習し、大いに国産開発の事業を興そうと計り、学館創立を藩庁に請願した。藩主南部利剛は、新山館に敷地一万坪を貸与して、その計画を援助した。

文久三年五月、学館が竣工して日新堂と号した。

日新堂は、大島高任・八角宗律を総督とし、洋書読法より始めて西洋諸学術を伝習し、薬用植物の栽培・種痘の施行・鉱石の分析・製錬工作等の事業を開き、西洋医学と科学技術の開発に画期的な業績を挙げた。しかるに惜しいかな、戊辰の戦乱に際し兵器製造所とみなされ、明治維新に至り遂に廃絶に帰した。

